

美の里づくり審査会特別賞

恵那市^{さかおり}坂折棚田保存会（岐阜県恵那市）

心のなごむ坂折棚田の里づくり

坂折棚田は、標高約 400～600mの斜面に広がる約 360 枚、約 14.2haの田んぼであり、大部分は江戸時代に築造されています。「黒鍬」と呼ばれる専門の石工によってつくられた石積みや、手あぜと呼ばれる冷たい水を田に入れないための工夫など先人の知恵が随所に見られます。

現在、恵那市坂折棚田保存会(以下「保存会」という。)は中野方町を中心とした任意団体であり、会員数は 70 名です。役員9名が中心となって、農村と都市との交流を図るため各種イベントや棚田ブランドを活かした商品の販売、棚田の維持管理活動など、多様な活動を行っています。



自然環境を活かして造られた棚田も時代とともに変化が見られ、休耕地の荒廃が目立つようになり、坂折集落活動として景観維持のための雑草刈りや景観作物等の導入を行い、美しい里づくりに欠くことの出来ない集落住民の意識高揚に努めています。

平成 11 年に農林水産省の「日本の棚田百選」に坂折棚田が認定された後、坂折棚田保存会を設立、「棚田地域等緊急保全整備事業」や「農用地総合整備事業」により、棚田保全とは場整備の両方に取り組んできました。また、稲刈り体験ツアーや、企業の農業体験、棚田コンサートの開催など、都市との交流にも努めてきました。

この活動の輪を広げようと、平成 18 年に地権者中心だった会員を町内外から広く集め、新たに保存会を作り、棚田を活かした地域づくりを推進することとしました。

主な活動内容は、オーナー制度の他に、稲刈り体験ツアー、棚田コンサート、シンポジウム、石積み塾の開催や、棚田米や棚田米でつくられたお酒「くろくわ」の販売、案内ボランティアの育成、耕作放棄地の管理(草刈りなど)、景観作物(ナタネ、レンゲ)作付け、新ブランド作物の導入(山菜・ヤマユリ)、坂折マーケ

ットの会活動などです。

当地区は、江戸時代に長年かけて造成された石積みの美しい棚田を残す重点保存地区と、小型農業機械が安全に利用でき棚田の維持が容易に行える地区とに分かれています。どちらもとって棚田に変わりはないので、地区全体として調和のとれた集落活動を目指しています。

一方で、棚田保全という活動には、経済面も重要な要素で、安全な農産物生産及び坂折棚田の里づくりブランド品(主に加工品)を開発することが課題です。そのためにも保存会は現在任意団体ですが、将来はNPO法人化を目指して、継続的な活動を行えるような組織体制を整えていきたいと考えています。

■講評

江戸時代から続く棚田を先人の知恵を活かしつつよく保全しています。町内外の住民も参加した保存会により様々なイベントが行われ、棚田ブランドによる農業振興や景観作物の導入を通じた景観づくりが行われています。都市住民と地域住民が協力して急峻な地形の中で棚田を保全し、かつ地域の活性化を目指した多様な取組が評価されました。

